

登録コード	E9137300	開講年度	2026					
授業科目	司法・犯罪心理学						担当教員	高橋 史
英文授業名	Forensic and Criminal Psychology						副担当	
単位数	1	講義期間	前期(後半)	曜日・時限	水曜・2時限		対象学生	
講義室	教育E401			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】	
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ							
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					⇔	地域における司法臨床の現状、実践、および理論を知り、児童生徒の生活背景への配慮および司法領域との連携意識を養う。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					⇔	司法領域における心理支援について、社会制度的背景、心理学的理論、および心理学的援助実践の全体像についての理解を深めることで、地域社会で連携しながら対人援助を行う上での基礎を構築する。	
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、多文化協働、キャリア							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	最初に、司法領域の職種や制度等の基本構造について学ぶ。その後、犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件に加えて、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援についての基本的知識に関する講義やグループでの討議等を通じて、司法・犯罪心理学の理論と臨床実践のつながりを体験的・能動的に学習する。全体を通して、担当教員が司法領域での実務経験を活かして講義を行う。							
(5)授業計画	第1回 司法領域のさまざまな職種 第2回 制度・法律・活動倫理 第3回 犯罪・非行の原因と支援 第4回 司法精神医療 第5回 犯罪被害者のための支援 第6回 家事事件での心理支援 第7回 心理学的アセスメントと援助 期末レポート							
(6)成績評価の方法	以下を総合して判定する。 ・各授業回のディスカッションへの積極的参加：50% ・期末レポート：50% ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。							
(7)成績評価の基準	・授業で示された例題に限定した議論ができれば「水準にある」 ・他の事例に応用した議論ができれば「やや上にある」 ・授業で示されなかった資料を用いて新たな視点から議論ができれば「かなり上にある」 ・授業で示されなかった資料を用いて新たな問題の発見と解決策の提案ができれば「卓越している」							
(8)事前事後学習の内容	・授業中に配布される資料などを使って授業内容を十分に復習してから次回授業に臨むことを強く推奨する。							
(9)履修上の注意	・授業で紹介される事例について、授業外で口外しないこと。守秘義務を意識すること。 ・自習に時間を割くことを苦にしない学生の受講を求める。							
(10)質問、相談への対応及び連絡先	高橋史研究室（東校舎4階 E406） オフィスアワー 木曜日13:00～14:30 TEL 026-238-4231 e-mail f_taka@shinshu-u.ac.jp							
【教科書】	指定しない							
【参考文献】	指定しない							